

## 植物多様性センターの「毒のある花たち」

奥多摩エリアでアセビの花が咲いています。アセビはツツジ科アセビ属の常緑低木で、庭木や公園樹として多く植栽されています。アセビは有毒で、馬が食べると酔ったように苦しむことから「馬酔木」と書きます。他にも早春に花を咲かせる有毒植物は多く、園内にはキンポウゲ科のセツブンソウやフクジュソウ、ユキワリイチゲ、ヒガンバナ科のスイセン、ウマノスズクサ科のカンアオイなどがあります。他の植物が少ないこの時期の花はとても目立ちます。毒はシカなどの草食動物に食べられないための戦略なのかもしれませんね。



アセビ:円錐花序で、白いつぼ型の花を沢山付ける。



セツブンソウ:名前は節分の時期に咲き始めることから。



スイセン:古い時代に中国から渡来した帰化植物。



カンアオイ:フタバアオイに似たハート形の葉で固くて小さな花。